



◆ TOPIC ◆ 大学入試動向 ～文高理低と私大合格数絞り込み

現在の大学入試の動向の特長は「文高理低」と「私大の合格者数絞り込み」です。「文高理低」は、文字通り理系よりも文系の人気が高いということです。少し前に景気が悪く就職が厳しい時がありました。このような景気な時には理系の人気が高まります。これは「得意な技術や資格を持った方が職に就きやすい」と考える人が多いからです。いまは各業界「人手不足」で就職自体は困難ではありません。そうすると文系の人気が高くなります。特に昨年から今年にかけては経済・経営系と国際関係系の人気が高くなっているようです。

もう一つは「私大の合格者数の絞り込み」が挙げられます。私立大学は大多数の受験生が他大学との併願で受験しているため、実際に合格者の何割が入学するかを見込んで定員の何倍もの合格者を出しています。しかしこの見込みを誤ると、定員をかなりオーバーする入学者を抱えなければならなくなります。例えば100人定員だと思って入学してみたら同級生が150人もいたといったような事態が発生します。大学側は授業料がたくさん入り都合がいいですが、学生としては同じ授業料で教育の質が下がることが問題となります。そこで文部科学省は、私大に対して入学者数が定員を大幅に超えさせない方向で指導を始めました。これにより私立大学は合格者数を絞り込むようになりました。「合格数が減る？」ということを目にすれば「たくさん受けなきゃ」と多くの受験生が思います。事実たくさんの私立大学で出願者数が増えました。つまり一段と競争率が上がってさらに受かりにくくなっているのです。このような状況が次年度も続くと思われます。3年生はワンランク下の大学までを出願対象として考えておくことが必要と思われます。(文責：岡崎)

♪3年の窓♪ 進研記述模試の前に！

6月10日のマーク模試とドッキング判定される記述模試が7月1日に行われます。5月から模試がほぼ2、3週間ごとに行われ、ハードですね。3年生になったら、やたら模試が多いと思いませんか？それは、みんなは受験生だからなのですが。さて、今更ですが、3つ質問を投げかけます。

1. 受験生であるという自覚は十分ありますか？
2. 受験に対する姿勢はありますか？
3. 受験に対する環境は整っていますか？

「受験生だという自覚をもって、毎日当たり前のこととして、学習を行う。」この習慣が身についている人が、最終的には自己実現を果たします。さらにこれは早ければ早いほど良く、4月から6月までにはこの習慣をぜひ確立してください。『平日でも「学年+3時間」休日は「学年+6時間」の勉強時間を確保する！』難しいことですが、受験勉強をするということはこれくらいの時間が必要なのです。そして勉強がみんなの仕事です。規則正しい生活をして、学校に健康な状態で通い、授業に真剣に取り組む。まずはこれで、学習時間は5～6時間確保できます。さらに予習や復習を行い、自分に定着していることと、まだ不十分なことを認識する必要があります。この予習・復習は授業のみならず、模試や日々の試験（定期考査から小テストにいたるまで）にも当てはまることです。これを毎日当たり前のようにやろうと思うと、平日は時間が足りません。しかし勉強方法を工夫して、休日に平日にできないことをじっくり行うことができます。予習をやっておく、逆に復習をしっかりと行う等々、自分に合った方法を見つけ出してください。最後に、これを誰もが当たり前に行い、お互いに刺激し合っていくという学習環境を整えていくことも大切です。3年生は今、進む所こそ違いますが、志は同じはずです。各人が、ひとつ一つの各目標をクリアしつつ、**受験生としての自覚を持ち、良い環境の中で勉強を継続していく**ことを期待しています。(文責：松村)

♪2年の窓♪

もうすぐ進研模試。全国規模の模試なので、ライバルは全国の高校2年生、約49万人。これはすなわち、いずれ大学受験やセンター試験で闘う相手たちでもあります。2年生の夏といえば、3年間の高校生活の折り返し地点。今の自分はどのあたりの位置にいるのか、知りたいですよ。模試は「自分の実力」を測る絶好の機会です。

では、そんな模試でより良い結果を出すためにはどうすればいいのか。大前提として、まず基礎基本となるのは普段の学習、普段の授業です。習っていないことが模試に出ることはまずありません。毎日の授業や小テスト、家庭学習の延長にあるのが模試だと思ってください。そして、その毎日の勉強にプラスアルファの模試対策として、過去問をたくさん解いてみましょう。「過去問と同じ問題が出ることはないんだからやっても意味ない」なんて思っている人は大間違い。確かに模試で聞かれる範囲は「今までに習ったことすべて」ですが、だからこそ「例えばどんな問題が出るか」を知っておくことがとても重要です。さらに、過去問を解けば、出題傾向を知ることができると同時に、自分の弱点もはっきりと浮かび上がってきます。

今の自分に足りないものはなんだろう。自分は何がわかっていないんだろう。どうしたら、できるようになるんだろう。

模試は受けること自体が目的ではありません。模試の前までの取り組み、模試を受けた後の振り返り。すべてひっくるめて「自分の実力」にしてください。
(文責：松岡)



♪1年の窓♪ 一気に詰め込む学習で大丈夫？

GW課題考査や前期中間考査の前の宅習を見てみると、直前に5時間以上一気にやっている人が多くいました。そしてその内訳をみると、1つの教科が相当な割合を占めていることがありました。もちろん学習時間は長いに越したことはありません。しかし、それだけ長時間一気に詰め込んだことを本当に覚えているのでしょうか。

「覚える」ことができるためには、「忘れる」ことを前提にする必要があります。

「あ、なんか聞いたことはあるんだけど思い出せない」「のど元まで出てきてるんだけど出てこない」そのような経験をすることで、覚えたはずのことを忘れてしまっていることが自覚できます。その時がっかりしてはいけません。こういう時に教科書やノートを見直してもう一度覚えることで「次は忘れないようにしよう」という意識が働きます。忘れかけたときに覚えること、それが定着の第一歩です。

一日で一気にやって詰め込んだ場合、そのような経験ができなくなってしまいます。仮に翌日の定期考査には間に合ったとしても、その後の模試、さらには受験の時には生かされてきません。定期考査は通過点に過ぎないのです。

さらに言えば、いくら得意な教科であっても何時間も集中して学習することは難しいですし、苦手な教科ならなおさらです。同じ勉強時間でも「数学やるの少し疲れてきたな。そろそろ英語にとりかかろう」というように教科を変えるだけで脳の気分転換になります。

毎日の「少しずつ」を積み重ねれば、自分の「忘れた」に気付くこともでき、集中力も持続できます。ただ単に学習時間を増やすだけではなく、様々に自分の脳を駆使して学習の質も高めていってください。
(文責：安藤)

